

『INCHの楽しい仲間たち』 vol.8

去年は、小菅村でも大雪になりました。場所にもよりますが、120~140cmの積雪になりました。大雪の中で「孤立」と報道された小菅村。そんな中で、心配して、電話をしてくれて、話したことが記事になりましたので掲載します。冒険学校に参加している、山田築くんが書いてくれました~!!

9歳

「大雪が教えてくれたこと」

山田きんくん

二月に小金井に大雪がふりました。ぼくは、大喜びで雪のすべり台を作り、冬休み山梨県小菅村のキャンプで作ってきたソリで何回もすべって遊びました。

そのころ、小菅村で大雪のため、道路が寸断されて食べ物や灯油が届かなくなってしまったとニュースで聞きました。

心配になって、小菅村に住んでいる、キャンプでお世話になったくろさわさんに大丈夫ですか、ときいてみました。

すると、「食べ物があると数日分しかない」「陸の孤島」

などと言われているけれど、村の人はみな、秋にとれたじ

ゃがいもを持っていているし、灯油がなくなったらねごをだいてねていればいいし、そんなに村の人は、さわいでなくて、落ちついていいると言ったのでした。

村の人同士で雪かきを手伝ったり、食べ物分けあったりしているという事も知らせてくれました。

ぼくは、それを聞いて安心したのと、人々のたくましさに感動しました。物や食べ物が充分なくても他の物を使って、その代わりをしたり、今ある物を工夫してみると案外生活ができるんだなど、思いました。

災害がいつ来ても大丈夫な様に色々なじゅんぴをしておかないといけないと思いました。

<「市報こがねい」 平成26年8月号より>

実際に、小菅村は停電しなかったので落ち着いていました。仮に停電していても、生き延びることはできると思います。小菅の湯駐車をヘリポートにして、ドクターヘリは早めに準備されました（透析患者をはじめ）。

